

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。登壇の許可をいただきましたので、山口裕子、ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

昨日来より、東北の震災の瓦れきの件など、いろいろな問題が上げられておりますが、私も今回、昨年１週間のチーム武雄のメンバーとして行かせていただきました。それと、会派のほうで宮城県の仙台市若林区のほうに行かせていただきました。そしてまた、機会がありまして、１年たった３月１１日に陸前高田市、若林区のほうにも行かせていただきました。どうか皆さん、本当にきずな、助け合い、みんなでこの日本を何とかという気持ち、私たちも何ができるのだろうと動いてきましたが、市長が１２月に瓦れきを何とかしようという形で動かれたときに、それを取り下げられたとき、本当に私は何でそういうふうになったんだろうというふうにもうびっくりしました。本当にいい動きだなという形でいたんですが、脅迫があったりとか、市長としては、もうこれ以上動けないということだったんですね。

でも、私はそれを動きがあって、今、１２月にそれを出されて、１月、２月、３月と来て、本当にそれが悪い意味なのか、いい意味かわかりませんが、皆さん日本全国に何とかしようという人たちの気持ちが少しは刺激になったり、じゃあ、どう考えていったらいいんだろうかというような形で、本当にいい投げかけになったんじゃないかなというふうに思います。

武雄市は、本当に早かったと思うんですね、募金活動、それから備蓄米とかの支援物資の提供をすぐされ、それから、被災者支援課の立ち上げですね、職員の派遣、福島の子どもの受け入れ、そしてチーム武雄の現地ボランティア、１２０名ほどが向かいました。本当に何でそういうふうな形、理解を求められないのかなというのが私の中にありましたが、これもいろんな見解があるので、一つ一つ行動を起こすときには、やはり理解を求めやすいような打ち出しをしていくということが一番かなというふうに、それが求められているのじゃないかなというふうに思います。

武雄市の動きとしては、市長の動きとしては、私は本当に現地を何回も踏んだ人の行動で何も間違いないんじゃないかというふうに私は思います。私もできることがあれば、何かしら少しでもという気持ちになるのが普通の人の行動じゃないかなというふうにも思います。

今は、きずなという言葉も余りにも使いなれて、それに魂が入っていないというふうに評価している方もいらっしゃるようになっています。この１年過ぎたところで、みんながそういう日本全体がもっと前向きにみんなで力を合わせようという気持ちになるときではないかなというふうに私は思っております。３月１１日、またその地を踏んで、瓦れきで何もないコンクリートの家の枠だけになったところに、ぽつぽつとお花が置かれて、そこに家族の人が黒いお洋服を着てお参りをされている様子は、本当に何とかして寄り添わないといけない、何とかしてこの支援を続けていかないといけないという気持ちにまた再度、私はさせていただきました。

そういう点を含めて、いろんな理解得ない言動があったり、行動があるかもしれませんが、その理解を深めるような動きを市長はもっとしていただきたいなというふうに思っているんですが、今後、武雄として、きのうのニュースとか、きょうの新聞を見てみましても、橋下市長も前向きに動いていらっしゃる。北海道知事も積極的にやっていきたいということ載っておりました。いろんな市町村も動きを始めておりますので、どうか、皆さんが一致団結で前に進めるように、市長も理解を深められるような行動をいち早く私は、また動いていただきたいなというふうに思っております。そういうところの件で、市長の見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁いたします。

まず、震災瓦れきの件については、私は日本人なり地域をやっぱり信じていたわけですよ。ですので、こういう投げかけを例えば杵藤広域圏での首長会議でした場合というのは、当然のことながら広域圏の首長さんたちもオーケーをしてもらい、そして、地域の住民の皆さんたちも多分御賛同してくださるというふうに思っていたわけです。あの当時は、批判があるといっても、今考えればですね、甘いと言われるかもしれませんが、さほどでもなかったんですね。ですので、話せばわかるって、あるいは行動すればわかっていただくというような幻想を思っていました、あの時点では。

しかし、先ほど山口裕子議員からもありましたように、そのきずな、きずなという言葉がもう本当にありきたりの言葉になって、我々が3月11日に陸前高田市に伺っている日に、きのう実はテレビで見たんですけれども、TBS系の「情熱大陸」で石巻日日新聞の特集があったときに、その被災者の方々が、もうきずなとか復興とかもう疲れていると、言葉として。そういう状況の中で、瓦れきの問題というのは恐らくね、もうさらに東北の皆さんたちを苦しめることになっているというふうに思っているんですよ。ですので、私は2種類、2つ道があると思います。

1つは、例えば、募金であるとか、ボランティアであるとか、さまざまな直接的な支援については、私は日本国民を信じています。ですので、それは善意に基づき、法定に基づき、一定支援をする。しかし、瓦れきの問題は、それは善意の問題じゃありません。ここは善意で手を挙げさせていたら、まず絶対進みませんよ。ですので、野田総理のやったことは、私は間違いだと思います。ざる法のね、災害の対策特別措置法の7条に規定されているんですね、委任することができるって。しかし、それ以下何も書いていないですもん。ですので、これはきのういろんな議員さんたちも、山口等議員にも申し上げましたけれども、やっぱりこれは法定計画に基づいて、各県に割り当てないとだめです。しかも、これは法定拘束力を

付して、各県にきちんとこれはやりなさいということをして、それで各県知事が私たち基礎自治体の長に要請するなり、指示をすることをしない限り、これは無理です。ですので、文書でお願いで多分、あしたかあさってか来るでしょう、佐賀県知事のところにも。もう知事だって困りますよ、これ。ですので、きょう朝、古川知事に私電話しました。ぜひ説明会をやってくれと、説明会を。知事が主催で国にお越しいただいて、来てもらって、県知事もだって説明能力ありませんからね、この場合に関しては。国が国の責任として、きちんと県と基礎自治体の長に説明をしてくれと。それで大体佐賀県だったら何万トン必要なんだと、何千トン必要なんだというのを言わない限り、これは無理です。紛糾します、絶対。

じゃあ、今度はね、もう大分風向きが変わってきました。私は、あほだ、ばかだと相当言われましたよ。だけど、私が今ジャンヌ・ダルクみたいに実はなっているんですね、たった何カ月かで。しかし、これは間違いなんです。今度は引き受けないところが悪いように思われるというのは、これはナンセンスなんです。ですので、きちんと国は、そういう都道府県の知事並びに私ども首長に対して、そういう説明会をする必要があるんじゃないですかということを、先ほど申し上げたように古川知事に申し上げたところ、知事もそれは意向として考えていると、特に国に説明をしてもらわなきゃいけないなということをおっしゃってましたので、その説明会が一つのポイントになると思います。

しかし、繰り返しになりますけれども、何ら広域法制もできていない段階で国は今回の文書というのを、ある意味アリバイづくりにもうつくっているんじゃないかっていう思いをせざるを得ません。一步前進ですけれども、そういう意味でいうと、やっぱり国の覚悟が定まっています。ですので、これは知事にも申し上げますし、知事も国に対して県議会の場でもおっしゃるということをおっしゃっていましたが、私たちも現場を預かるものの一人として、これは国に対して、さらに強烈に言うていく必要があるだろうというふうに思っていますので、答弁長くなりましたけれども、善意に基づく話と震災瓦れきの場合に強制力を伴う話と2つに私は分けて考えていくべきときに来ているんだなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4 番山口裕子議員

○4 番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に皆さん、テレビを見ていても本当に国の対応が遅いとか、本当に現地の方も何でこんな行き違いっていうか、鳥羽市長もそうだったんですが、何でここが欲しいんだとか、ここをしてほしいんだというときに、早急に動かないといけないことに動きがないということとかに、皆さんやきもきしてあると思うんですね。武雄市は、本当にチーム武雄120人がボランティアに行ったこととか、いろんな団体が救援物資を送ったりとか、武雄市はほかの自治体よりもすごくみんなの熱い思いが結集できている状態にあると思うんですね。だから、私もこうやって一般質問に立つときに、武雄は今度どういうボランティアをされるのとか、

どういふことで私たちは動いたらいいのていうふうに見てられます。

だから、何か市長も過激にいろいろ攻撃を受けたりとか、いろんな批判があったりしてて申しわけないなと思うんですが、ある意味、市長に対してでもいろんな批判をしていた人が、やっぱり陸前高田市長の講演会の準備をされて、一緒にシンポジウムがあったときに、その方は伊万里の市議さんで、結構私にも病院問題とか、いろんなときに批判をして、市長の行動をいろいろ言っておられたんですが、その帰りがけに本当にしみじみと、武雄はすごいねって、本当にこんなに早い動きと応援というか、そういうことができるってすごいねっていう一言を言っていたんですね。

だから、私はそういう気持ちのほかにも武雄市外とか、いろんなところにどんどん飛び火して、これがつながっていつているなというのを実感していつています。だから、必要なことはですね、武雄市は本当に動いてほしいし、あとだれでもがやきもきしているのは、目標というか、その明確化、何のためにこれを行っているかというのと、そういうふうに見が細分化して、どういふふうに見かないといけないかというのが県とか、地方自治体におりてきていないというのが一番問題なように思いつます。

もう市長今、答弁されたこといろいろわかりますが、やはり武雄市は武雄市として陸前高田市長のところに職員を送るようなこととか、本当にこの間、大友さんとか早坂さんとかまたお会いして、実際にどういふことに困っておられるとか、そういう話を聞いて、すぐに動けることはもう武雄市が先頭になって、やっぱり切っていくのは私はそれは必要じゃないかというふうに見っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思いつます。よく国に対して批判ばかりする人いるじゃないですか、首長でも。国は遅いんですよ、やっぱり。それは仕方がないんですね。もうあれだけ膨大な行政機構を抱えていて、調整することも山のようにあります。そういった中で、よくリーダーシップの不在とか、じゃあ、おまえがやってみろと思うときあるんですね、本当に。

宮本議員もよく僕に批判しますけど、じゃあ、あなたもやってくださいって、こう思うときもあるんですよ。でも、それはやっぱりね、それよりも私が考えなきゃいけないのは、批判するのは大事です。だから、宮本議員を否定しているわけじゃないですよ、否定していますけど。そうじゃなくて、要は批判するということのもう1つ大事なのは、その批判の100倍ぐらいやっぱり自分が動かなきゃだめなんですよ。ですので、私は国に対しても強烈に批判をします。もう政府から、もう言うてくるんなどいうぐらいに僕は言われているんですよ、もう言うてくるんなどいうふうに見。でも、私は言いつます。そのかわり、その政府の高官にも民主党の幹部の人にも言いつましたけれども、そのかわり私は皆さんたちがやる前に、これだ

けのことを動きますというのを言います。ですので、そういう意味でいうと、今度、武雄市議会がまた決議をしてくださると思います。できれば、全会一致をお願いをしたいと思えますけれども——無理かな。ですので、そういう中で、ぜひ後押しをしてほしいんですよ、後押しを。

やっぱり行政の長というのは、なってよくわかりました。もう孤独です。これほどトップというのは孤独かと。僕の場合、友達も全然いませんしね。孤独です。そんな中で議会の後押しこそが、やっぱり市民も見ていますし、行政の原動力になる。そういう意味で、北九州市議会が一昨日、決議をされたと、これはもう全国的なニュースになっているんですね。福岡県議会がそれに呼応して決議の準備をしているというのを西日本新聞で拝見をしました。ですので、そういう意味でいうと、北九州市議会の議会は議会として、そういった輪が広がることがやっぱり善意の輪が広がる一番最右翼になってくるというふうに思っています。

もとより私が反省すべき話は、やっぱり言葉が足りないんですね、私は。思いがあっても。これは十分に反省をしています。ですので、こういう意図があるんだけどというのは、どんどんやっぱり私自身も語らなきゃいけませんし、述べなきゃいけないというふうに思っていますので、これは私の反省するものとして謙虚に受けとめたいなと思っております。やっぱり批判があるというのは、そういう理由もあります。火のないところに煙は立ちませんので、特にこの——ほかのところでは何批判されてもいいんですけど、特に東北のその震災についてはね、きちんと誠意を持って説明をしていくことがやっぱり政治家の一人として、首長として求められているというのを痛感しております。

ですので、今後、例えば震災瓦れきの受け入れのことに关しましても、時期的にはまだ決めていませんし、これは議会によく相談をしますけれども、そういったところでもきちんとやっぱり説明をするということ、これがやっぱり求められているんだなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4 番山口裕子議員

○4 番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に皆さんも1年たって、テレビの映像からいろんなドキュメントというか、実態が映し出されているし、子どもたちの声とか、子どもたちの様子とか、本当に涙なしでは見れないような画像がたくさん流れていました。

私も実際行ってみて、お二人の方と仲よくさせていただいて、一人の早坂さんは切実に、その震災の後、一生懸命無我夢中になって動いて、仮設住宅に引っ越ししたりとかいろんな思いを抱きながら行動していて、突然にですね、やはりおえつのような涙がとまらないような精神に陥ったり、全身がもうじんま疹だらけになるような、すべて精神的な疲労というか、そういう形を繰り返しておられるというんですね。だから、本当に前向きに、前向きに東北

の方たちは本当に頑張っておられるんですけど、本当に大変な中、そういう思いで武雄市がちょっとでもこうやってしたことがもう涙でいつも再会して「ありがたい、ありがたい」っておっしゃっているんですね。だから、それを本当にもうひとつ終結して、いい形にしていけないといけないんじゃないかなというふうに私は思っています。

自分も一主婦だったり、家庭の中で世間を見ていると、やはり皆さんは何でそがん簡単かこのできんととか、わかっとうもんって、そういうのはみんなで瓦れき撤去とか当たり前やろうもんっていうふうに隣近所とか、私の仲間とかこう言われるけど、本当に簡単だけど、そういう理解を得れないところもあるんだから、その理解を得てもらおうようにするのは、私もこういう時間をいただいているし、それには一生懸命努めていきたいと思うよというふうには、今、私も言わせていただいているところです。

だから、しっかりと目標を定めたら、やはり——市長の至らないところって、だれでもそうですが、もう少し冷静にとらえて、どうしたら理解を得られるかという動きを細分化して、市民の皆様に訴えていただいたらいいかなというふうに私は思います。

動きとしては、本当に武雄市はすばらしい動きをしていて、たくさんの影響力もあっているんだなというふうに私は思っております。

それでは、第1番目の環境問題の頭にこれを言わせていただきましたが、自分も長年環境活動をしていまして、こういう形で瓦れきの問題、放射能の問題が大きく上がってくるとは想像もしておりませんでした。今回は生活の中でダイオキシン汚染についてという形で上げさせてもらっておりますが、昨日もダイオキシン汚染の問題がちょっと言われておりましたが、これはたまたま昨年来からことしにかけて市民の方3人ぐらいから相談を受けました。これはもう自分さえよかったらいいというのが一番問題じゃないかなと思うんですが、一番猛毒、ダイオキシンという猛毒ですね、そういう害を知らないでやっておられるのか、市としてのごみ処理の仕方の分別がわからなくて、こういう行動を起こされているのかわかりませんが、野焼きの中でも塩化ビニール系、プラスチック系とか、タイヤとかをやはり今でも燃やしてあるわけですね。それが周辺部の方はやはり、御近所つき合いもあるし、何回となく区長さんが言ったりしていても、人間関係もありますので、なかなか言えないとか、あと一人の方は市役所に言ってみた、しかし、現場をちょうどそのときに押さえないと、なかなか指導はできないとか、いろんなことで私のほうに相談に来られました。やはり、私も自分の地区じゃなくても何かで出かけたときに妙なにおいがしたり、目を刺すようなちくちくするようなのが、何か燃やしてあるねみたいなのに遭うことがあります。

こういうことで相談を受けましたので、武雄市のそういう実態、そういうので何とかしてくれというのがどれくらい上がっているのか、また、その指導はどのようにされているのかをちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。ごみの苦情の件でございますが、平成22年度では19件の通報がっております。平成23年度は今のところ、11件ということになっております。

実態といたしましては、通報等がありましたら現地に向かいまして、その場で指導を行っているということをしております。それから、野焼きについての広報を3回程度載せているということでございます。また、野焼き焼却が多い地区につきましては、回覧等でお知らせをしているというのが現状でございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはりこれが悪質なのか、夕方とか暗くなってから燃やされるとか、あとはちょっと人けのない山に持って行って燃やされているという実態を私のほうに届けられているんですが、やはりこれはもう十分なごみの分別とか、武雄市としては広報関係ですね、随分できてきたと思うんですね、ごみの処理の仕方とかはですね。ちょっと前までは、区で集会があったり何かすると、木とか紙なんかは燃やしていても、本当に知らないというか、意識のない人はそこにプラスチック系のトレイとか、そういうのでもうぱっぱぱぱ燃やして処理をする。そういう形が見られたんですね。ごみの処理法も、かつてはやっぱり家に焼却炉を備えて、燃やして焼却するという方法でもあったので、塩化ビニール系のダイオキシンの恐ろしさとか、そういうことに気づかなかった時期はそれでよかったんでしょうけど、やはりこれだけ放射能の害、目に見えない害の恐ろしさ、これもダイオキシンも同じように、これはもう低温で燃やされると本当に猛毒なガスが出るわけですね。それが、きのうもちょっと言っておられましたが、油というか、そういうのに融合しやすく、女性たちの母乳とか、そういう形に、ひどくて22ピコグラムぐらいの数値を持ったとも言われているんですが、そういうことを考えて、畑の野菜とかもそうですね、自分が燃やして、自分だけでは済まない、近所すべてに影響を及ぼすことも考えて、これはもう少し嚴重にチェックをしていただかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。特に、プラスチック、塩化ビニールなどの低温で燃やしたらすごい発生するガスなどをもっと知っていただかないといけないんじゃないかなというふうに思っておりますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

御指摘のとおりでございますが、やはりこれだけダイオキシン問題等問題になっておりますので、市民の方には徹底した分別の収集をお願いすると、これがもうまず基本じゃないか

などと思います。それで、あとモラルの問題として、やはりそういうことをすると塩ビ系のあれを燃やすということをいかに問題なのかというのをやっぱり知っていただくということが大事だと思います。したがって、そういう観点から広報等でさらに充実した指導をしていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

4 番山口裕子議員

○4 番（山口裕子君）〔登壇〕

そのダイオキシンの恐ろしさを知ると、やはり食べ物、空気、水を通して人体に取り込まれて、それが子どもたちのアトピーとか、アレルギーとか、甲状腺ホルモン異常とか、成長障害とかって随分問題にされて、やっぱり焼却炉のあり方とか、いろんなのが検討されるようになってきたんですね。だから、やっぱり一人一人の意識を変えないことには、こういうことがいつまでも続くんじゃないかなというふうに思います。だから、人の苦しみとか、人のことを考えるというときも、自分さえよかったらいいという考えで、なかなかこういうのがですね、わかっていても、平気にそういうことをされているという形が生み出されているんじゃないかなというふうに思いますので、やっぱりそこら辺の知らない人、もう知らないということはないと思うんですね。だから、ぜひとも電話があったときの対応とか、やっぱり御近所の方、自分から本当にそれを見ていると言えないので、そういうときの市の対応をきちんと、二度とそれを続けてされないような対応をしてほしいということをおっしゃっておられるので、ぜひともよろしくお願いしたいと思います。

それでは、次に行きます。

福祉行政について2 番目です。1 番目で乗り合いタクシーとみんなのバスについてですが、乗り合いタクシーが山内町を走っているんですが、これはなかなか乗らないで空っぽのまま入る問題とかいろんなのがありまして、予約制になったわけですね、乗り合いタクシーが。あるちょっと高齢でも自分で病院に行ったり、動きができる人が、何で年寄りが出先から予約ば入れたりとか、そがんことの難しかことばせにやいかんろうかという話だったんですね。よく話を聞いてみると、三間坂駅に着いたときに乗り合いタクシーがちょうど時間にありました。しかし、だれも乗っていらっしやらないから乗せてもらえますかと尋ねると、いや、おたくは予約をされていますかということで、いや予約はしておりませんで、たまたま電車で着いたらこんなだから乗せてもらえんだろうかということでお願いしたら、予約をしていないとだめですということだったんですね。だから、高齢者の方にとってというか、本当に不便でいらっしやる方にとって、その行動がわかっているならばそうですが、事前に、携帯も持たない人も多いわけですね。そういうときに融通をつけてあげるような対応ができないのかということで切実に、なしそがん冷たかことばさすとやろうかみたいな形で言われたので、そういう対応をどう思われるかお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり行政というのはかたいもんですね。政治の世界に入るとつくづくそう思いますけど、ただ、行政から言うと、僕は行政にいましたので、やっぱりルールというのは大事なんですね。このルールを守るといえるのか、それをしないと実際やっぱり運営ができないということにもなりかねません。

答弁に入ります前に、ちょっとデータだけ申し上げたいと思います。私が山内町ばジョギングしよって乗り合いタクシーに結構乗りよんさですもんね。乗りよんさって数字を出すと、平成23年9月までで1,686名の方が乗っておられます。ですので、これは非常に、山口議員は周知の問題で見解が我々と違うかもしれませんが、結構親しまれて乗られています。ただ、ここは議員と全く同感なんですけど、そいぎ乗っとんされんぎですよ、乗すつぎよかたいえて普通は思いますよね、盛義議員もね。ですので、そういったことは血の通う融通をしていきたいと思います。

ですので、方針は変更します。変更して、もともと予約を第一にしますが、もしその場で来られて、あるいは事前にして空きがある場合はどんどん乗っていただくというふうに、きょうから方針を変更したいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に毎週月曜日を病院の日とか決めて、毎週月曜日に乗りますとか、もう月に1回その予約を入れておけばそれで乗れるとか、あと私の知っている方で障がいを持っている方が作業所に通うのにもう毎日それを予約入れて、毎日利用しているとか、本当にこれは以前より活用ができていたというふうに私も感じていたんですね。だけど、あいているときは、ぜひともこの——もう本当に小まめにはできないものという、今からの対応なんですね。やっぱり高齢化社会になっていくし、自分もそういうふうになったときにどうだろうかと考えたときに、それは本当にありがたいことだと思います。すべての面において、そういう形が出てくるとは思いますが、そういうふうに融通をつけていただくと本当にありがたいんじゃないかと思ひまして、言っていた方も多分喜んでいらっしゃると思います。

そしたら、次のみんなのバスについてです。これはどの地区も実験運行ということでとり行われていますが、大変好評を得ていて、うちの地区でも本当に2回、形を変えて実験運行をさせていただいております。ぜひとも、いろんな形で議員さんたちもお声を上げていただいているので、これは市長がきちんと続けていくということはわかっておりますが、その利用されている方たちも、金額があれですが、もう有料であつてもいいからとにかく続けて

ほしいという形、あと、週に2回、今うちの地区は週に2回ですが、毎日じゃなくていいから続けてほしいという意見。

それと、先ほどの件ではありませんが、うちの地区が行く場合、駅とか農協とかいろんなところを拠点にしていくんですが、そのときに空の状態が走っているときに、隣の地区のお年寄りの方が何で乗れないのかというのを一番強くおっしゃいます。本当にうちだけが優遇されて実験運行しているんじゃないんですが、やはり隣の梅野地区、それと大野地区とか、そこを通っていく方々の高齢者の方が、空で行きよつときもあるとか、1人しか、2人しか乗っていないときもあるというふうに強くおっしゃるわけですね。そういうときに、何だか前は黄色いハンカチか何か乗せたら、この方は乗られるんだなとかわかるように、何かそういう形でもっと有効活用ができたらいんじゃないかなということを上げてもらっていますので、それに対しての见解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをちょっと。みんなのバス。（モニター使用）

これはみんなのバスで、これは今山地区なんですけれども、やっぱり今山がうまくいっているのは草場区長さんの物すごい熱意と情熱のおかげなんです。だから、実際うまくいっているところというのは、やっぱり最大の原因は区長さんを初めとして区民の皆さんたちの物すごいバックアップがあるということなんです。

実際、中を見ると、こんな感じなんです。実際、バスの中でこういうコミュニケーションが、こういうふうに進んでいるということなんです。みんなのバスというのは、これ若木とか北方もそうなんですけれども、こういうふうに行き回されていて、実際ですね、これは今まで運転手さんの裁量に任せていたんですよ。他の地区でも乗せるということはやってもらった運転手さんもいます。だけど、これはルールの外の話だったんですね。ただ、これ実験運行してよくわかりましたけれども、そういうニーズというのはありますので、さっきの乗り合いタクシーと同じように、あいていけばどんどん乗っていただくようにしようと思っています。しかし、これね、少なくとも、これ1回あったんですよ。30代の方が乗ろうとしたと、これはだめです。何かその方は、精神年齢は60歳以上だからと言ったらしいんですけど、これはだめです、だめ、だめ。ですので、年齢で差をつけるというのはどうかとは思いますが、やっぱりおおよそ70代以上の方ですね。だから、山口昌宏議員とかはまだだめです。ですので、70代以上の方で、やっぱりぜひ乗っていただくということで推奨していこうかなと思っていますし、有償化も思った以上にですね、この制度の存続であれば有償化もぜひしてほしいと。そんな高い価格じゃなくて、値段じゃなくて、してほしいという声も多数寄せられていますので、今のところ、平成24年度の後半から、来年度の後半から

有償化をするという方向で行きます。

その中で、ぜひですね、これ使われている市民の皆さん、区民の皆さんたちにもお願いがありますけれども、これみんなのバスというのはワンマンバスじゃありません。みんなのバスですので、ぜひこういうふうにしようよとか、どこどこに行ってほしいとかというのは、ぜひ要望として投げてほしいと、入れてほしいというふうに思います。やはり無関心だと、我々も実際どうしていいのかわからないというのがあるんですね。制度があるにしても、こういうみんなのバスにしても。そういう意味で、実験運行の段階はもう終わりますので、本当の意味でのみんなのバスになってくることを期待しますし、それに対して、行政としては全面的に応援をしてまいりたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろんなところから、今山が本当に区長さんのおかげで順調に実験運行ができていたので、やっぱりほかの地区から、これはもう本当に自分たちのところにも来てほしいとか、いろんな声が上がりましたので、そこら辺をもう一度検討していただいて、さらによくなるみんなのバスになっていくようお願いしたいと思っております。

それでは、次のインターネット社会について、きのうもちょっとICT寺小屋とかで1,269名、高齢者の方とか、女性の方が多いとかいって盛んに、こういう研修とか勉強会があっているようですが、その方はまだ60代ぐらいだったのですが、とても自分がインターネットになじめないというか、そういう方が不安気におっしゃっておられましたので、ここで上げさせてもらいました。

それは私も感じたりするんですが、私はそのときに、いや、フェイスブックだとか、ホームページでとか、ユーチューブでとか、いろんな言葉が出てきますが、武雄市はそういうインターネットをやっていない方も平等に情報がとれるようにはちゃんとなっていますよということで、安心できるようにお伝えはしたんですが、どうも何か取り残されていくような、何かそういう形をおっしゃって、何かそがん言葉ばっかい言われたら、おいたちはもう何か要らんもんのごととか、そういう形でおっしゃったわけです。だから、年齢に関係なくチャレンジして、どんどんそういう便利さとか、そういう形で自分の生活の中に取り入れていらっしゃる方もいらっしゃるんですが、やはり高齢化社会に進みますので、なじめない方にも平等に情報が行くように努めていただかなければいけないと思っているんですが、そこら辺の見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっと絞って答弁したいと思うんですね。基本的にはケーブルテレビの話だと思うんですね。データでいうと、旧武雄市のケーブルワンへの加入率は99.02%です。北方町もこれケーブルワンのエリアになっておりまして、62.83%に入っていると思います。基本的にケーブルワンで自主でつくったものについては、旧武雄市と北方町というのは垣根なく放映をされているという現状にあります、基本的には。ここで問題が山内町なんですよ、山内町はどうなっているかという、有田ケーブルネットワークさんへの加入率が28.92%、テレビ九州さんが54.97%というふうになっていて、2つ、しかもこれは嬉野系と有田系というふうに聞いていますので、そういう意味でばらばらばらなっているということは、これは裕子議員からも何度も聞いていますし、山内町民の方々からも直接何度も聞いていることなんですね。これについて、行政がどうこう、ここは全部株式会社で民間ですので、我々が要請はできますけれども、したいと思いますけど、武雄市のものについては、特に山内町においては、武雄市で例えばケーブルワンさんがつくったものを番組交換等するなりして、してほしいという要請はしますけれども、行政としてできるのはここまでなんですね。ですので、ぜひお願いがあるんですね。声を上げてほしいんですよ、声を。特に山内町の皆様方には声を上げていただいて、そうすることによってやっぱり我々が行政として、あるいは行政の長として言うよりは、見ている人がやっぱり武雄の番組を見たいと、全体の。ですので、それはぜひ山内町民の方々もたくさんごらんになられていると思いますので、ぜひ声を上げてほしいなというふうに思います。声を上げることによって、かなり物事がよくなるということは今までもよくありました。よくありましたし、やはりそれは、僕はそれこそ市民パワーだと思っていますので、ぜひそこはお願いをしたいなというふうに思っております。いずれにしても、そういった問題があるということは十分認識をしていますので、また、いい方法があれば、それはぜひまた教えていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私は2番目の質問でそのケーブルテレビの……。私は市報とか、そういうのでは平等に情報が出されているんじゃないですかということで質問をしていたら、先にちゃんと言っていたきました。

本当に山内町の西地区はですね、最初、私、合併したときからもそういう問題を上げておりましたが、高齢者の方にもかかわらず、ケーブルテレビは本当に楽しみにされているわけですね。そして、講演会があるいろんな情報が来ても、なかなか夜だったり、昼間の仕事とか行けないので、ああ、これはケーブルテレビで流れるもんねということで楽しみにされています。

ところが、武雄とか北方の人があれを見たねって声をかけられたときに、山内町の西地区ですね、有田ケーブルが入っているところはあっていないんですね。だから、やっぱりそういうところが5年、6年、合併してなったときに、本当にそれが不平等のように感じてくるわけですね、市民は。だから、ぜひとも今、市長が先に答えていただいた答弁はよくわかるんです。だけど、それと、その有田ケーブルはケーブルなりのすばらしい山内町を特集したようなのとか、また違う部分の情報もあって、ほかの人にならないような、ほかの局にならないものもあって、それはあるんですが、やっぱり同じ武雄市に住むならば、ケーブルテレビのウェートというのは結構住民にとっては大きいなというふうに思っております。どうにもならない、やっぱり行政がする問題ではないかもしれないですけど、そういう投げかけをやっぱりしてもらいたいなという声ですよ。もう一度答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁をいたします。

確かにですね、私は今、武雄町に住んでいますけれども、山内町のニュースってケーブルワンでは見ないんですね。これすみません、ちょっと誤解があったら後で訂正をぜひしてほしいんですけど、少なくとも私がケーブルワンの繰り返し流れているニュースでも、例えば北方町とかよく見るんですね。エリアでは大町町とか江北町も見ますけれども、山内町のニュースは見ないんですよ。これ同じ現象が山内町の皆様方からすると、旧武雄市とか北方町はなかなか見ないというのと多分同じ話だと思えますよ。ですので、1つ考えられるのは番組交換ですよ。（発言する者あり）私語を慎んでください。

ですので、やっぱり番組交換を促すということはすごく大事で、これは具体的にやっぱりちょっと言っていこうと思います。例えば——ちょっとこれはごめんなさい、よくわかっていないんで、これも誤解になったら訂正してほしいんですけども、去年、村上智彦先生、夕張市の。これ山内町で流れたんでしたっけ。（「西地区は流れていない」と呼ぶ者あり）流れていないですよ。これ物すごい評判よかったんですね。評判がよくて、実際、私もそれを聞いたんですよ、いつ流れるのということがあって、恐らく西地区のケーブルテレビは有田ケーブルテレビですよ、余り御存じじゃないかもしれないんですね。ですので、具体的に、これは我々命令する権限は何もありませんけれども、これは交換してくれないですかと。有田町からも、例えば有田町のケーブルテレビでも山内町の特集をしたときに、やっぱり同じ武雄市ですので、これは投げかけてほしいんですよ、私どもに。こういう番組をつくったんで、これをぜひ交換してくれないですかということで、その中に行政が入るということはあるのかなと思っています。

ですので、私はケーブルテレビどことも仲がいいですので、そういう意味で、いろんな連

携とか協調というのを行政の立場からできる範囲で促していきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そのように、この間の陸前高田市長さんの講演も聞きたいというふうに言われたけど、やっぱりですね。大体会場を見たら、九テレとケーブルワンという形なんですよ、そこにカメラが来ているのがですね。じゃあ、もう行政側がそうやって有田ケーブルの方にもこうやってありますというお誘いはできるのかできないのか、ちょっとお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ次答弁しようと思っていたんですけど、そうなんです、それは私もそのとおりだと思います。ですので、先ほどおっしゃられたように、我々がこういう情報提供をきちんとするというのはすごい大事だと思います。特に、おかげさまで武雄市の場合は、ほかの市と比べても物すごい今いい先生が、しかも安い価格でお越しいただくことになっていますので、特に来年度、平成24年度以降、中川恵一先生をまた呼びたいと思っております。放射線の大家の中川恵一先生を呼ぶ。そして、秋ごろに、これもちょっと一部質問がありましたけれども、村上智彦先生をまた呼びたいというようにも思っていますし、そして、経営並びに組織運営の第一人者である大久保寛司先生も呼ぼうと思っているんですね。ですので、これ一般的には御存じないかもしれませんが、この方の講演を聞くためには、1人15万円ぐらいかかるんですよ。ですが、これもすごい安い価格でお越しいただくことになりましたので、そういった方々の特に講演会について、どんどん3ケーブルテレビには告知をしていきたいと思っていますし、どうしてもやっぱり来れない方々のほうが多いんですよ、もう90%以上はそうなんですよ。そういった方々を大切にするのが、やっぱり市政としての大切なことだと思っていますので、それはきちんと呼びかけてまいりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうなんですよ、最近本当に市のほうからの講演とかを聞いてみたいという声がよく上がるんですよ。だから、本当は私もいい先生方がよくいらっしゃると思って、すべてには行けませんので、皆さんそういう声があるということです、聞いてみたいなっていうことで。

ぜひとも、そういうところの改善を今後期待したいと思っておりますので、よろしくお願い

いたします。

では、3番目に移ります。

3番目ですが、議員になりまして3期目、8回のチャンスを、ここでしゃべるチャンスがある中、今回、県道梅野有田線については5回目の一般質問になります。これを聞いていた方々が毎回、毎回ねという形で、じゃなくていい意味で、本当にあそこは何とかしてやらんといかんねという形の声を私のほうに届けてもらいますので、それとまたいろんな方法でどうなのかという形を行政のほうにも打ち出していないと、ここは何も先に進まないんじゃないかなというふうに思いまして、また上げさせていただきました。

上げているのを、本当にここを熱く思っている人が、私のほうに陳情という形で持ってこられましたので、モニターを通して見ていただきたいと思います。

その前に1つ、この問題点を投げかけたいと思います。私は、この梅野有田線の今山から大野までの県道をなんとかって言うときに、土木事務所とか、同じ地元の議員さんとか、区長さんとか行ったり、県議会のほうに行ったりとかして、動きをさせていただいております。そのときに、よく話が出るのは、上がってきていないものはどうしようもないみたいな形がよく言われます。この上がってくる、来ないというところの一番問題なのが、山内町時代的时候にも私はこれを言われたんですね。この県道梅野有田線の中の大野工区っていうところが、平成12年度から20年完了の予定でされているんですが、これが用地買収交渉ができなくて、見通しが立たないものとなっているんですね。だって、そのときに毎回行くと、ここが完了しないと次には行けませんということを言われ続けてきたんですね。これだったら一生というか、ずっと用地を持っている人がここになくて鹿児島かどこかにいて、なかなか難しいというのはわかるんですが、こういう決まり事を変えなければ、本当に困っている危険箇所とかに入れないじゃないかというふうに私は思います。もうどこも県内見ても、いろんな危ないところがあるし、いろいろ皆さんの話、きのうの話を聞いていてもわかるんですが、用地交渉がうまくいかなくて、そこが完了しないと次には行けませんというのは、とても納得いかないんですが、その件に対してはいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も、これは納得いきませんよ。よく、これ言いわけで使うんですよ、言いわけで。ここができないからここは無理ですって。だけど、これは誤解なきように言いますと、武雄土木事務所は物すごくよくやっているんですよ。歴代の土木事務所長がよかったということもあって、私もいろんな人とお近づきになりましたけれども、本当にこの工区の問題でも誠心誠意考えていただいているんですね。これは私が保証します。しかし、今までの一般的なルールとして、例えばA工区、B工区というのがあって、A工区がすまないとB工区に行かない

というのは、これは暗黙のルールなんですね。これ明文化したのはありません。暗黙のルールでありますので、これについては、私が壊します。壊れないと思いますけど。

ですので、土木事務所長並びに知事に、あるいは所管の牟田副知事に、これは言いに行きますよ。言いに行って、もうこういうルールは、通常はいいかもしれないけれども、これを言ったらいつまでたっても進みませんので、これについては私のほうからきちんと申し上げたいと思っております。

そして、これね、言うともた語弊がありますけれども、きのうの山口等議員の御質問の中で、旧市民病院裏の急傾地の部分で、あるお一方がなかなか応じてくださらないということがあって、これね、土地収用ですよ。もうどうしても意を尽くして、誠心誠意、やっぱり無理な場合というのはあるんですね、もう見解の相違で。しかし、やっぱり私益よりも公益です。私益よりも公益が大事だというのは、市民もぜひこれは理解をしてほしいんですね。この部分について一般論で申し上げますと、やはり土地収用というのは県も市もなかなかこれを伝家の宝刀として使えないというのは今までであったんですけど、これをもっと積極的に使うようにね、そうしないといつまでたってもやっぱり進まないっていうことになると、全体の公益がもう毀損されることになりますので、これについては、そういったルールも含めて国等に対してきちんとやっぱり言っていこうというふうに思っておりますので、ぜひ、そういう意味での武雄市議会の応援方をよろしくお願いしたいというふうに思っております。

長くなりましたけど、私も全く認識は一緒ですので、これについては武雄土木事務所なり、いろんなところに働きかけてまいります。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私がたびたび上げていることで、また今回、強くそこを望む方、そして、子どもたちの通学通路を見て、私のところに届けられたのをちょっと読ませていただきます。

日ごろの議員活動御苦労さまです。さて、過去4回にわたり取り上げていただきましたが、県、市からの前向きな返事がいただけませんでしたので、ペンをとりました。

県道257号梅野有田線の臼ノ川内から大野入口までの通学路の一部を一刻も早く安全に確保してほしいということです。ことしになってから、特に雨ばかりで子どもたちの差している傘も車道へはみ出し、足元は田んぼにずり落ちそうになり、車の風圧で吹き飛ばされそうになりながらおびえ、命がけで登下校している様子があります。いつまで子どもたちを危険にさらすのですか。子どもたちだけではありません。歩いてベビーカーや老人カーを押すペースすらありません。元気のいい大人たちは白線を超えてでも気をつけられればいいでしょうが、子どもたちは毎日おびえながら通っています。もちろん、危険なことを教えるのも教育でしょう。しかし、命を落としてからでは遅いと思いませんか。

東日本大震災の復興支援に自分も参加して、現地を目の当たりにしてきました。無理なことを言えないことは重々承知しています。本当に東北の復興はなかなか進まないし、震災に遭われた方たちを思うと心を痛めます。予算をそちらへどうぞと回したい気持ちでいっぱいです。だから、百歩譲って歩道を確保するため、大がかりな工事は必要ないと思います。もちろん、家を立ち退いてもらう必要もないと思います。素人考えではありますがということで、ちょっとモニターをお願いします。（モニター使用）

この方は、これをイというふうにされていて、イの写真を見てください。この側溝にふたをするだけで幅を確保できます。

次、ロですね。ロとハの写真を見てください。ここの斜めになっているところを日本の土木技術をもってかさ上げし平らにすれば、60センチから80センチは確保できます。それすらもかないませんか。とにかく、これだけでも工事をお願いできないのでしょうか。長年できなかったことを現場の知恵と予算でぜひお願い申し上げます。

念のため、ニの写真のように、このように大型トラックもすれすれですというのはこれでですね。ということであってまいります。

私も前は9月議会だったと思うんですが、これは本当に急激にダンプがふえたということが一番問題だと思うんですね。こういうふうに田んぼの持ち主というか、この側溝を上を上げれば、何とか確保できるんじゃないかというふうに言ってこられました。ここはもう家だから、ここにふたをするしかありませんが、本当に反対側を見てもそうですが、白線の内側が5センチもない10センチもないような状態になっているわけですね。本当に現状が変わってきているわけです。ダンプが本当にふえたということが急いでほしいという、こういう要望のことだと思います。モニターいいです。

そういうことを含めて、市のほうからもここに何回となく来て歩道を遠回しに持ってきたらどうかとか、いろいろな検討をされて、立たれている様子も見られていらっしゃるみたいなんですね。そんな検討もちょっとしゃべられたみたいな形なんですね。でも、ここは県道なので、やっぱり一番問題だと思うんですが、こういうふうに提案してきた方のことに対して答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私事で恐縮なんですけど、やっぱり山口裕子議員の御質問もあって、私、ここをよく走りますよ。走っていたときに、確かに四、五年前に選挙で初めて立ったときと比べると、大型の車両がもう3倍から5倍ぐらい多くなっているなということは認識をしています。健常者の私であっても、あのダンプの風圧に飛ばされるというような思いをしたことは何回かありますので、ましてや、御高齢者の方とか、お子様をお持ちのベビーカーを引くお母さんと

かすれ違ったこともあります。そんなときに、ここを何とかしてくださいといったことも直接言われました。よくわかります、自分がその現場に立つと、なおさらよくわかります。

そこで、先ほどちょっともしよかったらモニターを見せてほしいんですけど、側溝のふたのところ、その1個前、そうそう。（モニター使用）これなんかはね、もうやりましょうよ、もう。ふた。もう石橋部長がうんって言いましたので、もうやります。これね、できることからやらないきゃやっぱりだめですよ。これは側溝ですので、速攻でやっていきたいと思っています。

次をお願いします、次。この部分についても、やっぱり子どもたちからすると、なかなかこれも湾曲に傾斜がなっていますので、なかなか歩きにくいというのがありますので、ここはよく松尾技監とよく相談をして、この辺得意ですので、土地の所有者を含めて、ちょっともう少し歩きやすいようにしていきたいと、ここも歩いていいですよというふうにしていきたいと思います。これは松尾定技監の仕事です。ですので、やっぱりこれいいですね、モニターがあると、これで具体的な議論ができますので、これはぜひやっていきたい。

それで、大型車は次の質問でされるんでしたっけ。（「はい」と呼ぶ者あり）

じゃあ、これはお約束します。やっていきたいと思います。

ただね、地権者の方々を、ちょっとこれはバックヤードに行っていただくというのは、これは時間もお金もかかりますので、これについてできることからまずやっていきたいというふうに思っておりますので、これは指し示していただいて本当にありがたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にもう無理なお願いとか、皆さんが絶望的な形で私にいつも言われるんですね、何回も言ってもらっているのだからわかるというふうに、もうできないよねみたいなことを言われます。でも、今の答弁をいただいたことで、とてもまた前向きな形が皆さん、答弁でよかったと思います。

あと私は、本当だったらこれは箇所、箇所にしかないから、本当は通してほしいんだけど、この方も箇所、箇所でいいじゃないかって、逃げ道をつくってあげないと、本当に挟まれるんですよね。だから、そういう意味で、ちょっともう一回このところを見せたいと思うんですが。（モニター使用）このような状態でぎりぎりということは、これはもう真ん中、中央線越した状態なんですね、このトラックは。ここもそうなんです、ここを箇所、箇所しても本当にこっち側ないから、これ落ちる状態になるんですよね、子どもたちが。だから、もうどっち側でもいいから逃げ道を、ここは壁があって挟まれる状態で、ここも本当にわずかなんですよね。だから、そういう意味で、もう全部を完璧にさせていただかなくても

いいから、とにかく早急に逃げ道をつくっていただくような形ででもやっていただきたいなというお願いがあります。今後の検討をよろしくお願いいたします。モニターありがとうございました。

それでは、最後になります。子育て支援です。

前回、12月議会で出生祝金が廃止される条例が通りました。そのときも審議とか、そういう形でそれは対応できているのかとか、少子化に対しての対策、あとそういう意味でのさらなる努力のことで市長はどんなふうに行動を起こされますかという形で言っていましたら、何らかの形で市長は応援していきたいという声を聞いておりましたが、そういう件のどういう形というのが明確になりましたかどうかお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

出生祝金支給条例を廃止して、この部分の財源というのを子どもたちの医療費、特に入院費のほうに充てたいということで議会の同意を賜ったところであります。

その中で、ただ特に山口裕子議員から出生というのは特別なことだから、やっぱり残るものを市としても考えるべきじゃないかといったことについては、私どもとしても、これは大賛成なんですね、私たちもそれを考えていましたので。今、こども部で考えているのは、すみません、これちょっときょう今、さっき入りましたので、こういう立てたり、下げたりできる盾に私のメッセージでよかったら、私のメッセージと直筆のサインを入れて送りたいと思っています。しかも、できるだけこれを手渡ししたいと思っています。ですので、そういう物だけじゃなくて、心のこもった対応をしていきたいというように今のところ考えています。

ただ、これがベストだとは思っていません。これはやっぱり我々がベストだと思っても、受け取られる特にお母さんですよ、お母さんが、そして、将来のこれを見る子どもたちですよ、ああこういうのをいただいたんだというお声を十分拝聴したいと思っていますので、ぜひこの場でもね、いや、これはこれよりもこっちのほうがいいよということのアドバイスがありましたら、ぜひ承りたいと、このように考えております。

いずれにしても、これはこども部長の案なんですけれども、一生懸命子育て支援というのは、我々市全体としてもそういうふうに使っておりますので、ただ、繰り返しになりますけれども、アドバイスをいただければありがたいと思っています。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

何回となく子育て支援という形で今、世の中も大きく変わり、子育てもいろんな多様化の

時代となったし、どういう支援をしてあげれば、いろんな問題が解決していくのかなという形で、いろんな支援策を私も打ち出してきました。武雄市としては、本当に私は完璧にそろっているんじゃないかなというふうに思います。そして、今度、これが廃止になった分も医療費の充実という形になりました。でも、私としては、その少子化がどうすれば少子化を食いとめることができるのか、また、次に子どもを2人目とか3人目、ああよかったなという形になっていくのかなと感じたときに、やっぱり産まれたときに若い世代の方——若い世代ばかりではありませんが、子どもが産まれたときに武雄市はこんなに安心して子育てができますよというメッセージを、本当に市長みずから発信していただくというのは大きな力になるんじゃないかなというふうに私は思います。

それは、小学生とかがいじめですごく悩んでいたり、学校も問題になっているときに市長がいち早く学校を回って、じかに自分がお話をされた、そういう気持ちですね。いろんなことがあるけど、武雄市民みんなで子どもたちを応援しますよというような本当、心温かいメッセージを出してほしいなと思います。物とかお金とかじゃないと思います。だから、ぜひともそういう市長の力で、ああよかったなって。

それと私もいろいろキッズステーションだとか、子育てセンターだとか、いろんな充実を言ってきました。そして、武雄市にはこういう子育てのための情報たまてばこ「ゆうぽっぽ」とか、子育てセンターから毎月発行される「くすくす」という会報があります。これには1カ月通してのこんなにたくさんいろいろな行事が行われております。そして、一番すばらしいのは、これはちょっと自分が旧山内町のときに、女性ネットワークの中で本当に子育てをして、一番こんなのが欲しいと思ったお母さんたちがボランティアで作り上げた子育て応援マップというのが評価されて、これは武雄市でもこれが続いております。これの一冊を見れば、すべて公園とかどういふところに出かけられるということとか、武雄市のマップ、あとこれを見て、幼稚園、保育園、お医者さん、医療機関もわかるようになっています。山内町、北方町と分けて、こういうふうにできています。

子育てしたお母さんたちが武雄市にはこんなのがあったよねって、こういうのがあると安心よねという形が山内町のときにできたものが、こうやってまた継続されてできております。これだけ充実しているように思うんですが、やっぱり核家族化が進んで子育ての孤立化、孤独、やっぱり人と周りをつながれない、こういう情報を上手に使われないで悩んでいる方がいらっしゃるんだなというふうに思いますので、産まれたときにそういうメッセージ、行政のほうからもこういうのをお渡しして、武雄市にはこういうふうにそろっていますよというふうに言っていると思うんですね。そのときに、私としてはお母さん、実際子どもに一番出産したお母さんが来るのが少ないわけですね、だんなさんだったり、親御さんだったりという形で出生届に来られるから、直接にお母さんにそういう気持ちが、安心して子育てしてくださいねというようなのが伝わればいいなというふうに思っております。

一番最初の乳幼児健診とかいいなというふうに思っていたんですが、それが病院でされるということだし、一番最初で4カ月の健診というふうに聞いておりますので、最善を尽くして、そういう気持ちを行政からも発信していただきたいなというふうに思っておりますが、それに関しての見解をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

先ほどの記念の盾をお渡しする形でございますが、届けを持ってこられたとき、あるいは4カ月健診、先ほど議員のほうから言っていたんですけど、あるいはまた、生後2カ月前後で行う全戸訪問ですね。こういう折が考えられますけれども、出生後の転出入者をどうするかとかいう、そういった問題もございますので、今後、研究をしていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、お祝いの気持ちが伝わるような形でやっていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にさらに効果が上がるような形で、本当にみんな私たち先輩のお母さんというか、子育てをしてきた人たちとか、みんな応援したいんですよね。だけど、やっぱり孤独になってノイローゼになったり、虐待があったりとかしていますので、やはりこのところに、これだけ若い世代を応援しているんだよというメッセージを私は伝えてほしいなというふうに思っています。

さらに、この武雄市が子育てもしやすく、本当に温かいまちになっていくように望んでおります。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。